

果樹病虫害発生予察調査結果（7／10調査分）
（三条、加茂、田上地域）

7月10日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共通）

- ナシヒメシンクイは例年、第2世代以降が7月から徐々に増加します。モモでは果実被害や新梢の芯折れも確認されていますので、JAの防除暦（モモでは7月上旬～8月上旬が重点防除期）や情報を参考に防除を実施しましょう。
- ナシ、モモでハダニ類等の発生が確認されています。高温や乾燥状態が続くと急速に拡大しますので、寄生状況を観察した上で発生初期に防除を実施しましょう。

（ナシ）

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- セイヨウナシ褐色斑点病は6月中旬以降、発病が拡大しています。発病葉は摘み取って園外で処分し、感染拡大を防止しましょう。
- 調査園地外の「ルレクチエ」で、果実や新梢にナシマルカイガラムシの被害が散見されています。有効積算温度による予測では、7月21日～7月31日頃が防除適期となります。
- 一部で、ニセナシサビダニによる被害葉、アブラムシ類の寄生葉が確認されています。発生が多い場合は、寄生・被害部位の除去や薬剤散布を実施しましょう。
- 日本ナシで、花腐細菌病の発生が確認されています。り病枝はせん除し園外で処分しましょう。

(モ モ)

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- せん孔細菌病の被害葉が確認されており、増加傾向です。感染拡大を防ぐために防風対策やり病部位の除去も実施しましょう。また、収穫期を迎える品種も多くなるため、飛散（ドリフト）防止対策を講じるとともに、隣接園に防除日や散布薬剤を必ず確認しましょう。

(ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房を調査しました。

- 調査園地では病虫害は確認されませんでした。今後の降雨により露地を中心に灰色かび病・褐斑病・べと病が発生しやすくなります。発生に注意し適期防除を心がけましょう。

次回調査は7月25日(金)を予定しています。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020